

1-6 もうひとつの多様性～ メコン河流域の言語



タイ西部ラチャブリ県にあるモン族の寺院
(2012年9月)

メコン河流域の5か国（ビルマ、ラオス、タイ、カンボジア、ベトナム）では、のべ398種の言語が話されている（表）。これは、地球上の総言語数6,909種の5.8%にあたる。一方、流域5か国の総話者数は、世界全体の3.2%に過ぎず、3.2%の話者が5.8%の言語を話していることになる。太平洋（話者0.1%、言語18.1%）や南北アメリカ大陸（話者0.8%、言語14.4%）には及ばないが、ヨーロッパ（話者26.1%、言語3.4%）やアジア全体（話者60.8%、言語33.6%）と比べると、人口に対して言語が多様に存在すると言える¹。

国／地域	話者数	言語数	話者<1万	少数言語の例
カンボジア	13,511,970	23	12	Brao、Samre、Sa'och
ラオス	5,349,894	84	47	Aheu、Arem、Chut
ビルマ	47,319,800	111	35	Anu、Tawr Chin、Hpon
タイ	51,668,997	74	28	Bisu、Chong、Plang
ベトナム	75,650,099	106	42	Arem、Chut、En
5か国計	193,500,760	398	164	
世界計	5,959,511,717	6,909	3,524	
比率	3.2%	5.8%		

表 メコン河流域の言語多様性（Lewis 2009をもとに作成）

少数言語が支える多様性

ところが、398種のうち164種（41.2%）の言語では、話者数が1万人にも満たない²。話者数だけが言語の存亡を決めるわけではない（Nettle and Romaine 2000）。しかし、Crystal（2000）は、いくつかの試算を比較検討した上で、今後100年に、50%程度の言語が地上から消滅すると推測しており、ちょうど話者数1万人未満の言語（3,524種）が地球上の総言語に占める割合は51.0%であることから、21世紀中に、メコン圏で、先住・少数民族をはじめとする少数者の話す、164種の言語が絶滅する可能性がある。つまり、流域5か国だけで、毎年一つか二つの言語が消滅する計算になる。人類史において、言語は、常に消滅と生成をくり返してきたが、過去500年あまりで、消滅の速度が非常に速まっていることが懸念されている（Nettle and Romaine 2000）。

少数言語を脅かすもの

メコン河流域で少数言語を脅かす最大の要因は、国語や公用語といった優勢言語の急速な普及だろう。とくに、公教育の場では、優勢言語の使用と習得が奨励、あるいは強制される。少数民族の子どもたちに国語や公用語を獲得する権利や必要性があるのは当然だが、教師や両親が陰に陽に少数言語の使用を妨げると、子どもたちは、次第に、自分の言語や出自・経歴に価値がないと思込むようになる。その結果、学校ばかりか家庭でも少数言語は使われなくなり、次世代に引き継がれない。さらに、優勢言語は、テレビ、ラジオ、新聞などの大衆メディアや、映画、音楽といった大衆文化を通して、影響力を拡大・行使する。さらに、2015年、「東南アジア諸国連合経済共同体」(ASEAN Economic Community = AEC) 結成を間近に、ただでさえ優勢な「国際語」英語が、メコン圏の域内意思伝達手段としての地位を付加され、少数言語の価値を顧みることがますます難しくなっている。



ラオス北部ウドムサイ県パクベン郡に住むクム族の女性たち

紛争や内戦、自然災害、疫病の発生、あるいはダム建設などの大規模開発にともなう(強制)移転も、少数言語の存続を危うくする。ビルマやタイ南部に居住する先住民族のモーケン(Moken)語話者は、2004年12月に発生した大地震と津波で大きな被害を受けた。それ以前から、すでに経済・社会的に不利な状況を余儀なくされていたが、とくに沿岸部に住むモーケン語話者は、生活や生計に不可欠な船と家屋を失い、存亡の危機にさらされた(Skehan 2012)。また、タイ西部に住むシナ・チベット語族系のウゴン(Ugong)語話者の集落は、タイ発電公社(Electricity Generating Authority of Thailand = EGAT)が実施するダム建設計画によって立退きを余儀なくされた。その結果、地域社会としての結束が弱まり、言語やアイデンティティの維持に支障をきたすようになってしまった(Bradley 1989)。



ラオス南部セコン川流域に住むニャフン族の女性たち

先住・少数民族の言語には、地域社会が伝統的につちかってきた生活や生存のための知識や知恵が凝縮している。また、人間は生まれながらにして、独自の言語や文化を維持する権利をもっていると主張する研究者もいる(McCarty et al. 2007)。言語が消滅することで、人類の知恵が失われ、人権が侵害される恐れがある。生物の多様性だけでなく、言語の多様性も危機に直面している。

<自然と私たちの未来を考える～メコン河流域と日本～>

<参考資料：英語>

Bradley, David. 1989. The Disappearance of the Ugong in Thailand. In Nancy Dorian (ed.) *Investigating Obsolescence: Studies in Language Contraction and Death*. Cambridge, UK: Cambridge University Press 33-40.

Crystal, David. 2000. *Language Death*. Cambridge, UK: Cambridge University Press.

Lewis, M. Paul (ed.) 2009. *Ethnologue: Languages of the World*, 16th Edition. Dallas, Texas: SIL International.

<http://www.ethnologue.com/>

McCarty, Teresa L., Tove Skutnabb-Kangas, and Ole Henrik Magga. 2007. Education for Speakers of Endangered Languages. In *Handbook of Educational Linguistics*. Oxford, UK: Oxford University Press 297-311.

Nettle, Daniel. 1999. *Linguistic Diversity*. Oxford, UK: Oxford University Press.

Nettle, Daniel, and Suzanne Romaine. 2000. *Vanishing Voices: The Extinction of the World's Languages*. Oxford: UK, Oxford University Press.

Skehan, Craig. 2012. Time Running out for Moken Way of Life. *Bangkok Post* May 13, 2012.

<http://www.bangkokpost.com/news/investigation/293059/time-running-out-for-moken-way-of-life>

(土井利幸)

-
1. アフリカでは、世界の話者総数の 12.2%が 30.5%の言語を使用している。
 2. Nettle (1999) によると、話者数が 1 万人未満の言語の割合は、オーストラリア・太平洋諸国で 92.8%、南アメリカ 76.5%、北アメリカ 77.8%、中央アメリカ 36.4%、アフリカ 32.6%、ヨーロッパ 30.2%となり、世界平均は 59.4%、アジア平均は 52.8%である。